
玉野の色

プチメタボ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

玉野の色

【著者名】

ZZマーク

N1527F

【作者名】

チメタボ

【あらすじ】

横浜からど田舎のへやつてきた青年がその地を愛すくなる
過程が綴られた隨筆です。

私が初めて玉野にやつてきた時は

これまでに経験したことのない田舎っぷりにひどく驚いた。

更に岡山弁の「おえん」の意味を理解するまでに数ヶ月を要した。

寮に入つてすぐの頃、食堂のおばちゃんが顔を掛けに来た。

私が「お飯を盛りました時に炊飯器の釜を替えようとしていたからだ。

「あ、おえんおえん、お兄ちゃん、今みてーとーからーと待ちいや。」

「おえん」と「みてー」「いつも分からなー言葉出てきて意味不明であつた。」

私が思わず聞き返した言葉は

「すみませんが、どうごつ意味ですか?」

普通ならば「おえんてどうの意味ですか?」などと分からなかつた言葉のみを

聞き返すと思つたが、当時の私には何を言つたのかすら聞き取れなかつたのである。

標準語の横浜にいた私は同じ国内でこのような大きな言葉の壁に出くわすとは夢にも思わなかつた。

それから4年半。今ではすっかり岡山弁に染まつてしまつた。

「おえん」「いらつ」「いじーすゐ」「ぼつかー」「じゅうー」「じゅけん」「へりーが」「へしてーみ」「へしづー」

などなど覚えた方言はかなり多数に上る。

使い言葉もかなり増えてきた。そして今では全く違和感も無い。

「住めば都」という諺があるが、全くその通りで

今ではインターネットの普及も手伝って玉野の不便さを感じる」とい
も少ない。

当初の半年間は休日のあまりの静けさに気が滅入つて生きた心地が
しなかつた。

それがいつの日か見慣れぬ景色が見慣れた景色になり、
気付いてみるとすっかり玉野市民となつていた。

天満屋玉野店が次第に便利なデパートに感じつつある。

横浜からすればなんてちっぽけな店だという感覚を覚えるはずだが、
洋服以外のほとんどの日用雑貨は天満屋で揃つてしまつ。

人間も動物も自然に環境に適応して生きていくものだと感じる今
日この頃である。

無意識のうちに体がその地に慣れてくれることは大変歓迎できる能
力である。

次はどの地に行くのだろうか？

何年かして結婚することにでもなれば、岡山か倉敷辺りに体が保護
色していくのであろう。

次の地がまた楽しみだと思いつつ玉野の色を満喫した夜だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1527f/>

玉野の色

2010年10月28日03時22分発行